

授業の公開にあたって

大学教育機能開発センター
橋本健夫

1. モジュールの名称 : ことばと文化

2. モジュール設定の趣旨

人は常に考え、行動している。これが人を作り、社会そして文化を維持、発展させてきた。この文化の形成にあたっては、自他の考えを伝え合うこと、即ち、コミュニケーションが、不可欠となる。この際に重要な役割を果たすのが、ことばである。

モジュールにおいては、ことばに焦点をあて、現代文化の理解に迫りたい。また、ことばは、その用いられ方によって伝える力が変化する。この魅力にも気付かせたい。これらの中で、多文化理解への道も拓き、適切なことばを用いることによる人間性の涵養にもつなげる。

3. 授業科目の名称 : マスメディアと表現

4. 受講生 : 医学部、歯学部、薬学部、工学部、環境科学部の88名(資料2参照)

5. 授業のねらい

ことばや映像を活用して社会に発信する新聞やテレビを取り上げ、それぞれの報道の特性を理解するとともに、ことばの使われ方や映像の工夫などに気付く。さらに、それらの報道を批判的に受信する態度形成の重要性も理解する。

次に、現代社会の中で特徴ある生き方をしている先輩の中から、最も共感を覚える人物を取り上げ、その効果的な紹介法を追究する。この中で、論理性や合理的な構成の必要さに気付くとともに、最適なことばでの発信を心掛ける。この過程で、考えを伝えるための、必要条件を改めて認識する。さらに、友人の素晴らしさにも気付く、協働の大切さを知る。

6. 授業の経緯

本授業のスケジュールについては、資料1に示しているが、改めてその概要を述べる。まず、1回目は、全担当教員が本授業のねらいや展開について説明した。2回目から4回目までは、長崎新聞社の論説委員である高橋先生が担当した。ここでは、実際の新聞記事を取り上げ、各新聞社の意見の違いを知る方法や、新聞を読み比べて読者が独自に判断する重要性を学んだ。5回目から7回目までは、NBCの記者である関口先生が担当した。彼は、自身が担当した長崎市長への襲撃事件を取り上げ、テレビ報道のあり方を具体的に紹介するとともに、受講生に対して映像の感想や発信方法の工夫を考えさせていた。さらに、被爆者である渡邊さんの生き様を特集した番組を紹介し、彼女の素晴らしさについて受講生と意見交換を行っていた。このように本授業の前半は、マスメディアの報道の特性や注意点、並びに、受け手のあり方を考える授業となった。

橋本の担当は8回目(11月30日)からである。その日は、改めてモジュールの意義及び本授業で涵養すべき能力や態度について再確認するとともに今後の授業計画を示した。そして、前回の授業時間に配布したCD(朝日新聞の土曜版に掲載されている「フロントランナー」(現代社会の中で注目すべき生き方をしている各界の人物の特集記事)の3年分(約180名分)を集めて焼き付けたもの)の中で、自分が最も気に入った人を選び、その理由や新しく自分で調べたことも含めた形での「私の一押しフロントランナー」のレポートを完成させるように再度指示した。9回目と10回目は土曜日を使って2時間連続の授業を展開した。その1時間目は、各自の一押しのフロントランナーを紹介し合い、各班で推薦するフロントランナーのベスト1とベスト2を決めさせた。2時間目は、その2名のフロントランナーをクラス全体に紹介するプレゼンテーションコンクール向けの企画案の作成と資料収集の時間とした。11回目の授業は、そのプレゼンテーションを完成させるための時間とした。そして、本日が12回目の授業となり、各班が推薦するフロントランナーのプレゼンテーションコンクール本番である。次回は、もう一方のフロントランナーを各班が紹介し、全員の投票によって優秀な班の選定を行う。さらに、自分自身を分かりやすく紹介するための内容や方法を追究し、パワーポイントの資料として提出することになる。

7. 本時の展開

時間	学生達の活動	教員の働きかけ
0分		本時の展開の説明とプレゼンテーションにあたっての注意事項及び採点についての留意事項を確認する。
10分	1班から順に持ち時間5分での「班一押し」のフロントランナーのプレゼンテーションを行う。	プレゼンの良い点を褒める。
	各プレゼンが終了するたびに各班での採点を行う。	発表途中で気付いたことや改善点を指摘する。
70分	感想を述べる。	プレゼンを聞いての感想を促す。(時間的には遅れ気味と予想)
80分		各プレゼンの総評を行い、次回のプレゼンへの期待を伝える。また、自分自身のプロフィールプレゼンの企画が冬休みの宿題であることを伝える。

- 評価の観点：①プレゼンターの顔を見ながら聞けたか。(主体的態度)
 ②協力しながら採点できたか。(協働の精神)
 ③次回の準備を正確に受け取ったか。(踏み出す力)

8. 課題

後期の開始以来、受講生の行動や授業時の活動を観察してきた。その結果、次のような問題点があり、その改善を本授業で図りたいと考えてきたが、まだまだ途中である。

- ① 遅刻者が多い。また、大きく遅れても平気な顔で入ってくる。
- ② 授業を開始したときから班を構成し、全ての時間で班の意見を求める場を作ってきたが、班内の話し合い等に参加できない学生も少なくない。
- ③ レポート提出期限に提出できない学生がかなり存在する。
- ④ 予習、復習のためにレポートを課しているが、内容が乏しいものも少なくない。また、その作成が自分のためになるとの意識ではなく、指示されたから出すという心が読み取れるものもかなりある。
- ⑤ 主体的な授業への取り組みが伺える学生は、まだまだ少ない。

つまり、アクティブラーニングの実現に向けて教員サイドからのメッセージは出しているものの、それを受け取り、行動化する学生には至っていない。また、協働の意識も低い。もちろん、発信方法を再度検討することも必要ではある。

9. 各班の所在

黒 板	IX	X	XI	
	V	VI	VII	VIII
	I	II	III	IV

投 票

用 紙

氏名／班名 (

)

I 班		
説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総 計		

II 班		
説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総 計		

III 班		
説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総 計		

IV 班		
説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総 計		

V 班		
説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総 計		

VI 班		
説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総 計		

VII 班		
説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総 計		

VIII 班		
説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総 計		

IX 班		
説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総 計		

X 班		
説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総 計		

XI 班		
説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総	計	

説 明 力	的確な説明になっているか	
新 鮮 力	新鮮な情報提供であるか	
アイデア力	パワーポイントの工夫	
構 成 力	論理的な展開であるか	
総 合 力	総合的に訴える力	
総	計	